



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課
(担当) 土本、濱下
(電話) 06-6949-6435

令和6年7月12日

内航船員の確保・育成対策

滋賀県豊郷町立日栄小学校、社会福祉法人いかるが園及び
福井県立若狭高等学校にて出前講座・職業講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、滋賀県豊郷町立日栄小学校、社会福祉法人いかるが園及び福井県立若狭高等学校において、出前講座・職業講座を実施しましたので、お知らせいたします。

1. 実施日：令和6年6月20日（木）出前講座
対象者：滋賀県豊郷町立日栄小学校：小学6年生36名
講師：近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏
2. 実施日：令和6年6月22日（土）出前講座
対象者：社会福祉法人いかるが園：児童13名、施設職員3名 計16名
講師：近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏
3. 実施日：令和6年6月25日（火）職業講座
対象者：福井県立若狭高等学校：海洋科学科 1年生 55名
講師：近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏

配布パンフレット等：

- ・「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）

配布先：海運関係業界プレス

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役会長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

また、船員の供給ソースとして徐々に増加傾向にある水産系高校の生徒を対象に、若年内航船員確保推進の観点から、さらに多くの生徒に内航船員への就職を志向してもらうことを主な目的として「職業講座」も実施しています。

1. 滋賀県豊郷町立日栄小学校で出前講座を実施しました。

令和6年6月20日（木）に滋賀県豊郷町立日栄小学校において、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとした出前講座を実施し、6年生36名が参加しました。

当日は、近畿内航船員対策協議会の磯合構成員（三興海運（株）専務取締役）を講師として、日頃、船員に接する機会の少ない生徒に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、世界地図やパワーポイントを使うなどわかりやすく説明しました。



講演では、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、資源が少なく輸入に依存している日本において、産業の基礎を支える非常に重要な役割を担っており、非常にやりがいがある仕事であることを伝えました。

滋賀県は学校教育の一環として小学5年生を対象にびわ湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育が行われていますが、船の大きさをイメージしやすいように、サッカーのフィールドが3面並ぶほどの大きさになることを説明し、大量の物資を一度に運ぶことができる船の強みを紹介しました。

船員の働き方として、2～3ヶ月乗船して20日～1ヶ月の休暇を取得するのが一般的なサイクルであり、住む場所と働く場所が同じであることから通勤の必要がないことなど、陸上職との違いを意識してもらい、船員という職業に接点の少ない生徒たちにもイメージしやすいように説明しました。また、長期間の休暇を利用し、自分の趣味や旅行を満喫できることなど、まとまった休暇を取得できる船員ならではのメリットも紹介しました。



そして、乗船しているあいだには、クジラを目にしたり、イルカと併走することがあることや、毎日満天の星空の下で天体観測ができることなど、陸上では想像できないような経験について体験談を交えながら話し、また、給与面においても、船員は陸上職を大きく上回っている点など、船員として働くことの魅力を伝えました。



最後に、「船員に限った話ではないが、早いうちに自分のやりたいことを見つけると、早くから知識を身につけることができ、その知識は社会人になってから必ず役に立つ。自分が興味のあることは頭にも入りやすいので、まずは興味を持つことが大切」という助言を送り、講演は終了となりました。

2. 児童養護施設の子ども達を対象に出前講座を実施しました。

令和6年6月22日（土）、奈良県生駒郡斑鳩町の社会福祉法人いかるが園が運営する児童養護施設いかるが園の子ども達を対象に、出前講座を実施しました。

講座は、近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石取締役を講師に迎え、入所児童13名と、施設職員3名の計16名が参加しました。



講座では、講師手作りのパネルと、船の形をしたプラスチック製組み立てブロック玩具を用いて、海運および船員の仕事が身の回りの生活にどのように関わっているかを理解してもらうために、海運に関するクイズを出題することで、子どもたちが積極的に参加できる形で行いました。

クイズは、輸入の主要品目を当てるものから海賊が出た時の撃退方法まで幅広く出題され、出題されるたびにたくさんの子ども達から手が挙がり、賑やかな雰囲気ですべて進んでいきました。

最後に講師から、「世の中には皆さんが知らない仕事がいっぱいある。身の回りにあるものは、皆さんの手元に届くまでに数えきれない人々の仕事関わっている。手元にあるものがどんな人の仕事でできているか、興味を持ってほしい。」とメッセージを送り、終了となりました。



3. 水産系高校にて職業講座を実施しました。

令和6年6月25日（火）に福井県立若狭高等学校（小浜市）において、近畿内航船員対策協議会の磯合構成員（三興海運（株）専務取締役）を講師として内航船員に関する職業講座を実施し、海洋科学科1年生55名が参加しました。



福井県立若狭高等学校は、現在は船舶職員養成施設ではないことから、生徒は大学進学も視野に入れた多様な進路選択をすることが可能であるため、船員とはどのような職業であり、船員になるためにはどのような進路を取るべきかという内容を主に伝えました。

まず、物流の中でも海運は、資源が少なく輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。

次に、内航船員となるために必要となる海技免状について、大企業では学歴を重視する会社もあるが、内航海運会社は学歴ではなく海技免状を取得していることが評価となることを伝えました。

続いて、実際に内航海運会社に採用されて、乗船することとなった際の仕事内容、休暇や給料等、船員の待遇面について話をしました。



生徒からの質問として、「船の仕事は3K（きつい・汚い・危険）と言われることがあるがどうなのか」といった内容があり、船は国際ルールによって運航をおこなっているので安全な運航が確保されていること等を時間の許す限り講師が丁寧に回答しました。



水産系高校から内航船員への就職が全国的にも増えており、着実に成果が出ていることから、若年内航船員の確保において、効果的な取り組みである職業講座を引き続き実施していきたいと考えています。

（近畿運輸局 海事振興部 船員労政課）